



地域まんまる in 川中島 「地域の交通を考える」

日 時：11月27日(金)13:30~16:00

場 所：川中島町公民館多目的ホール

参加者：メディア・発表者含め62人

共 催：NPO法人エコライフ・プロジェクト信州・川中島町住民自治協議会



■開催までの経緯

昨年度小田切地区で開催した、地域の交通について考える交流会には、多くの方が参加されました。テーマは中山間地の交通ということでしたが、参加者の中には平地の住宅街を抱える地区の方もいて、住民の移動についての課題は中山間地だけではないということがわかりました。

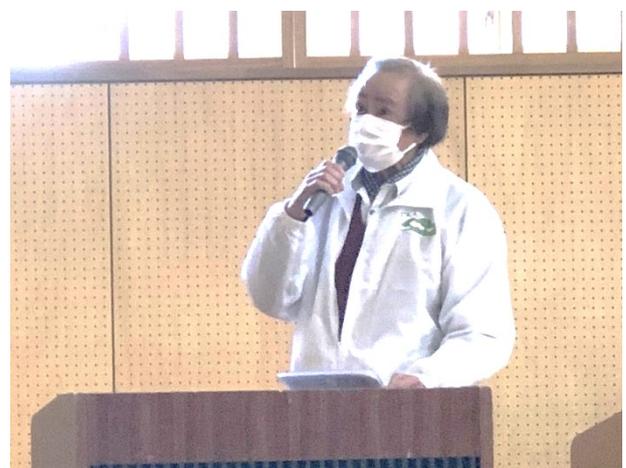
今年度の開催を考える中、地域コミュニティづくりをするNPO法人エコライフ・プロジェクト信州(エコ信)が、「10年後、交通・移動の問題は避けては通れない」と活動を始めたと聞きました。川中島地区内の乗り合いタクシーの現状調査に取り組んでいたのです。それなら、ぜひ一緒に企画をと、川中島町住民自治協議会にも声をかけ3者での協働開催が決まりました。

■当日(前半 情報提供)

当日は、地域内外から62人が集まりました。前半、市交通政策課から、川中島地区内を走る乗り合いタクシー川中島号の現状を共有。エコ信からは川中島号に試乗しアンケートを集計した内容について発表。「少なくとも数年間誰も乗降していない停留所がある」「西友川中島店での停車時間が少なく、買い物をするには時間が足りない」「とても狭い道を通っていて危険」。また、「この川中島線を知らない、利用したことがない人も多く、利用している人は限定的」など、動画も用いて問題点を挙げました。



コロナ禍にも関わらず大勢の参加者



川中島線の報告をするエコ信片桐治さん

さらに、後半のワークのために、長野市社会福祉協議会から「地域たすけあい事業」の福祉移送についての現状、先進的な取り組みとして県先端技術活用推進課から小海町と南相木村での ICT を活用した貨客混載の実証実験についての報告もありました。当日飛び入りで松代地区住民自治協議会からも市が公共交通にかけている予算についてと松代での現状、若槻東条区からは住民アンケートの結果から、移動手段に課題のある人が見えてきたことについて報告がありました。

■当日(後半 ワークショップ)

後半は全員で意見交換。まず「今地域にはどんなニーズがあるのか?」「使えるような資源は?」を出し合いました。暮らしに直結する買い物や通院はもちろん、免許返納で外出機会の減少の問題、そして、美容院や温泉など「ふらっとでかけたい」という時間に縛られない移動手段を求める人たちの姿が見えてきました。それに対して、今ある資源は・・・? 移動販売・野菜市や買い物代行、家族・友人・近所での助け合いなどなど。改めて考えてみると意外と地域に資源があると感じた方もいたようです。



「使えるような資源は?」

最後は「車がなくても暮らせるまちづくり」について意見を出し合いました。考えるのは10年後の未来です。タクシーや移動スーパーの利用、脚力の向上など比較的すぐに個人でできることから、構造的な改革やコンパクトシティを目指すという地域、市全体での転換を求める意見も。送迎付きのサービスの開発やオンラインで買って配達してもらうというアイデア、また、自給自足や住民の支え合い、考え方を变えることも大切では?との意見もありました。



★ワークショップのフセンから

「今地域にはどんなニーズがあるのか？」

- 外出しなくなり、閉じこもり、認知機能の低下や意欲の低下を招く
- 高齢者を外に出さないと、だめになる。歩けなくても無理やり出すべき!!
- 車の便利さになれてしまっているのに、バス等への移行してほしくても気持ちが変われない
- 超高齢の人が運転している（免許返納できない）
- 地区内のイベント「はつらつ体操など」に行きたいけど、免許がないので行けない
- 買い物に行けない
- 通院ができない。病院に行きたい（日赤や厚生連、専門医など）
- 山間地でスーパーがなく買い物できない。宅配はあるが、見て選びたい
- 乗り合いタクシーは地区外だと利用できない
- 小田切地区かつら号、便利になったがもう少し乗れる時間を延長してもらいたい
- 通院にタクシーを使うが、高額！
- 高校生の通学に使えるバスが必要
- 地元ではない地域へ行く場合、路線バスや公共交通がわかりにくい、不便
- 長野駅からの土日の最終バスが早すぎる・・・
- ふらっとお出かけできない
- 行きたい時と行きたいところにいけない
- 日帰りで温泉にでもいきたいなあ
- 若い家族は日中働いていて、高齢者は身動き取れない
- カルチャーに行けない
- 畑に行けない
- 公民館や社協、住自協の催し（サロンや会食会など）に参加したいが、車がないといけな
い→それによって本当に来てもらいたい人が来れない
- 美容院に行きたい

「使えそうな資源は？」

- 乗福祉自動車（地域たすけあい事業福祉移送）
- 乗り合いタクシー
- タクシーの障がい者割引（1割）、免許返納割引（1割）
- タクシー
- 小田切はフルデマンドタクシー「かつら号」あり
- 路線バス（路線も本数も減ったけど、不便だけど一応ある）
- おでかけバスポート
- ご近所さんが買い物してくれる
- お買い物バスツアーをやっている地区がある
- 「お買い物おたすけマン」という活動があるが・・・担い手不足・・・どう活かせるか・・・

- エコ信の野菜市
- 生協の共同購入
- 移動スーパー・移動販売者
- 知人・友人
- 家族
- みんなで乗り合わせ（通勤者のマイカーに乗り合う、学校や部活の送迎のついて？）
- 温泉付きの日帰り温泉バス
- 郵便局が御用聞き
- 自転車（鉄道への自転車乗り入れ許可されたら・・・）
- ヒッチハイク！！
- 行きと帰りを分けてなんとか行く、なんとか帰る(；^_^A

「車がなくても暮らせるまちづくり」

- 店などが送迎付きサービスを企画する
- 保育園や社会福祉法人の車、空いている時間帯に活用
- タクシー事業者との連携
- タクシーの割引券を
- 近所で一緒にタクシーに乗り合わせて
- タクシー利用と自家用車維持費明確にしてタクシー利用を進める
- 市民税を上げて乗り合いタクシーやバスの補填に
- 住民の支え合いサービス（許可の要らないさまざまな移動支援。コーディネーター費用を行政が補助すれば広がる）
- 法律での規制を緩和。ボランティアでの送迎サービスができるように
- 移動スーパーや移動販売車の活用
- スーパーのカタログ通販・配達してくれる、支払いは銀行口座
- ネット販売・オンラインお買い物
- 宅配サービス
- 相乗り誘発型MaaSの活用
- 自動運転のシェアカー
- 相乗りシステム開発
- 大型ドローン
- オンデマンドの研究。病院・買い物・観戦・安価に利用したい
- ニーズを見える化してマッチングするシステム（行き帰りの時間だけうまく合う人を見つけられる）

- バーチャル旅行
- ズームお茶会
- オンライン受診

- 乗り合いタクシーを買い物・病院・JR（鉄道との結節をよくする）など用途別で便を作る
- バス路線見直し
- バスの乗り方教室に参加
- 総合病院巡回バスの運行
- 訪問医療

- コンパクトシティ（街の方に住む）。商店・病院・銀行・コンビニが近くにあるところに引っ越す
- 老人ホームに入るしかないか・・・
- 基本的な隣近所の人たちとフランクにつき合えるまちづくり

- 目的地へ行くウォーキングチームを作り、おしゃべりしながら歩く！！
- 脚力向上
- いつまでも歩ける体づくり
- 歩く！足を丈夫にする

- 鉄道を中心としたまちづくり。篠ノ井⇄豊野間で。川中島は農業振興地区になっていて無理か・・・耕作放棄地ばかりなのに
- 公共交通の構造改革

- 備蓄する（お山は常にちょっと非常事態・・・汗）
- 免許返納する 2 年前くらいから、返納後どうやって生活していくのかを一人ひとり考えてみる
- 自給自足

すぐにできそうなものから、かなりの時間かけて議論しないとできそうもないものまでさまざまな意見が出されました。この問題は長野市内どこの地区でも待ったなしと思われます。できることから始めて行けたらと思います。

■終わりに

みなさんまだまだ話したりない感じでしたが、最後にエコ信の理事長宮下八紘さんから「今後も行政や住民などが一緒に話せる場づくりを」と発信がありました。まんまるでは来年度も引き続きこのテーマについてみなさんと考える機会を作りたいと考えています。

